

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

3年 福祉科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

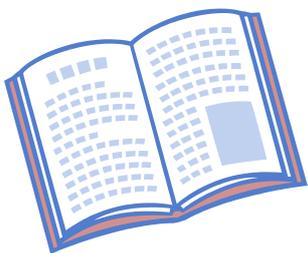
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	国語表現	2	3年	福祉科	全員

学習目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
授業計画	1学期 1, 書いて伝える 2, 小論文・レポート入門 3, 自己PRと面接 2学期 4, メディアを駆使する 5, 声とコミュニケーション 3学期 6, 会話・議論・発表
学習方法とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加し、自分の考えを進んで発表する。 ・的確な表現をするために、辞書を活用する。 ・ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。 ・副教材を用いて、漢字・語句・語法の演習問題を解く。 ・様々な場に表現の機会を持つようにする。
評価の観点と方法	<p>「国語表現」では以下の5つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に授業に参加し、不明な箇所や興味のある内容を進んで調べたり、積極的な読書を通して自分の意見を表現できているか。</p> <p>【話す・聞く能力】自分の考えをまとめ、相手に正確に伝えたり、相手の話を的確に聞き取ることができているか。</p> <p>【書く能力】自分の考えを適切な表現を用いて表現できているか。</p> <p>【読む能力】文章を正確に読みとることができているか。</p> <p>【知識・理解】漢字・語句や文法等を理解し、適切に使用できているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト、出席状況 等により総合的に評価します。</p>
使用教材	教科書 「国語表現 改訂版」大修館書店 副教材 「国語表現 基礎練習ノート」大修館書店 「国語常識の総演習」京都書房

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史A	2	3年	福祉科	全員

学習目標	古代文明の学習をきっかけにして世界史に興味・関心を持ち、大航海時代を契機に世界が一体化していくことを理解する。近現代史では、人権や自由が尊重される市民社会がいかにして形成されたかを学ぶとともに、欧米列強による植民地支配の実態と影響について考察する。また、二つの世界大戦の学習を通して、過去の失敗から学んだ教訓や財産を未来に生かすことで、歴史教育の意義を理解する。そして、異文化理解の重要性を認識し、主体的に世界平和に寄与する態度を養う。
授業計画	1学期 前近代の諸文明（東アジア、西アジア、ヨーロッパの文明など） 大航海時代の始まり アジア・アメリカへと進出するヨーロッパ 2学期 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 世界を分割する帝国主義 第一次大戦がもたらしたもの 3学期 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 地球社会への歩み
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見だし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。
使用教材	教科書 「明解 世界史A」 帝国書院 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	3	3年	福祉科	全員

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。	
授業計画	1学期 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 2学期 第3章 体内環境と恒常性 3学期 第4章 植生の多様性と生態系	
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。	
評価の観点と方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。	
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 新生物基礎」 問題集 「プログレス 生物基礎」	第一学習社 第一学習社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	3	3年	福祉科	全員

学習目標	<p>①2年次からの継続で、少し長めで複雑な英文を読みこなしていくことによって、話し手や書き手の意向などを理解し、自分の考えなどを英語で表現する能力をさらに伸ばす。</p> <p>②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。</p>
授業計画	<p>1学期 Lesson 6 English Textbook from Around the World Lesson 7 The Hayabusa Project</p> <p>2学期 Lesson 8 The Origin of Santa Claus Lesson9 The Only Japanese on the Titanic</p> <p>3学期 Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing</p> <p>*実際の授業は種々の都合によりこの通り行われなことがある。</p>
学習方法と アドバイス	<p>予習として教科書を読み、わからないところを発見しておく。 辞書を引くことや音読・朗読を習慣化する。 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 提出物を丁寧に仕上げる。</p>
評価の観点と 方法	<p>コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習、辞書を引くこと、音読・朗読が習慣的にできる。 【外国語表現の能力】授業に積極的に参加して、情報や考えなどを英語で話す・書くなどの活動をする。 【外国語理解の能力】教科書を読み、その内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。</p>
使用教材	<p>教科書 NEW ONE WORLD Communication II Revised Edition 教育出版 副教材 NEW ONE WORLD Communication II Revised Edition Workbook 教育出版 チャート式デュアルスコープ総合英語 数研出版 英単語ターゲット1400 旺文社</p>

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	介護福祉基礎	3	3年	福祉科	全員

学習目標	介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を育てる。	
授業計画	<p>1学期</p> <p>介護福祉サービスの概要と連携</p> <p>(1) 介護サービスの概要</p> <p>(2) 介護における連携</p> <p>2学期</p> <p>障害者の生活と支援（障害者総合支援法）</p> <p>(1)地域生活移行</p> <p>(2)就労支援</p>	<p>3学期</p> <p>介護における安全確保と危機管理</p> <p>(1)介護従事者の健康管理</p> <p>(2)介護における安全確保と事故対策</p> <p>(3)介護における連携</p>
学習方法とアドバイス	介護実践の基盤となるような内容を学習する。 教材の内容をより深めるため資料を活用し学習効果を高める。 ノートやレポート等は期限内に必ず提出する。	
評価の観点と方法	<p>「介護福祉基礎」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>介護や福祉に関する知識について関心を持ち、自立を促す介護に向けた課題に主体的に取り組むとともに、介護や福祉に関する幅広い視野と向上を図る実践的な態度を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自立に向けた介護についての知識と技術を活用して諸問題の解決を目指して思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。</p> <p>【技能】</p> <p>介護に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、介護に関する諸活動に対応することを目指してその技術を適切に活用している。演習などで実践できているか。</p> <p>授業で学んだ知識をふまえて、自分の考えを適切に表現できているか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>介護を必要とする人の介護の意義と役割や人権尊重の重要性について理解し、介護に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、自立支援などの介護の意義と役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、ノートやレポート等の提出物、体験的学習や授業に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>	
使用教材	教科書：「介護福祉基礎」（実教出版）、プリント、国家試験対策問題集等 介護福祉基礎学習ノート	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	生活支援技術	3	3年	福祉科	全員

学習目標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得するとともに、さまざまな介護場面において安全に支援する能力と態度を育てる。	
授業計画	1学期 医療的ケア 障害に応じた生活支援技術 2学期 障害に応じた生活支援技術	3学期 国家試験対策
学習方法とアドバイス	自立に向けた生活支援の介護についての基礎的な知識、技術を学習する。 校内実習とチェックリストによって介護技術の定着を図る。 他科目での関連ある学習内容を活用し理解を深める。 「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」で学習する尊厳の保持や自立支援の考え方を活用する。 「こころとからだの理解」で学習する人体の構造や機能、生活障害に関する知識を活用する。	
評価の観点と方法	<p>「生活支援技術」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 介護の意義を理解し、生活支援技術についての知識や技術に興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用・表現し、問題解決を目指しているか。 生活支援についての知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけているか。</p> <p>【技能】 介護に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、実習で実践できるか。 講義や実習の体験をふまえて、その技術を適切に活用しているか。</p> <p>【知識・理解】 介護に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、介護の意義や役割を理解しているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、技術試験、レポート等の提出物、実習や授業に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>	
使用教材	教科書：生活支援技術（実教出版） 副読本：新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」8「生活支援技術Ⅲ」 15「医療的ケア」（中央法規出版）、プリント等	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	介護過程	2	3年	福祉科	全員

学習目標	人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を育てる。
授業計画	<p>1学期</p> <p>第2編 介護過程の展開 (4) 介護計画の実施と評価</p> <p>第3編 介護過程の実践的展開 (1) 介護過程の展開の実際</p> <p>2学期</p> <p>介護実習まとめ</p> <p>第4編 介護過程とチームアプローチ (1) 介護過程とチームアプローチの意義 (2) 介護過程とチームアプローチの実際 事例研究</p> <p>3学期</p> <p>(1) 国家試験対策</p>
学習方法とアドバイス	現場における介護過程の実際を学び、介護計画の立案・実践・評価について、事例などを参考に演習を行い、介護過程の展開における実践的な能力と態度を養う。 「介護総合演習」「介護実習」と関連して行う。
評価の観点と方法	<p>「介護過程」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 介護過程に関心をもち、介護を必要としている人の自立に向けた課題に主体的に取り組むとともに、介護過程に関する幅広い視野と介護過程の実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 介護過程に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【技能】 介護過程に関する基礎的な技術を身に付け、介護過程が展開できる能力と技術を適切に御活用している。</p> <p>【知識・理解】 人間としての尊厳の保持と自立生活支援について理解し、介護過程に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、介護過程の意義と役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、ノートやレポート等の提出物、体験的学習や授業に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>
使用教材	教科書：介護過程（実教出版） 副教材：最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」（中央法規出版）、プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	介護総合演習	1	3年	福祉科	全員

学習目標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造・発展に必要な資質・能力を育てる。	
授業計画	<p>1 学期</p> <p>1. 第4章 実習先の特徴 第1節 訪問介護</p> <p>2. 第5章 実習Ⅰの展開 第4節 実習モデル③ 家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習</p> <p>3. 第6章 実習Ⅱの展開 第2節 実習モデル 介護過程を展開する介護実習</p> <p>4. 第5段階介護実習Ⅱ（入所施設実習）</p> <p>5. 第6段階介護実習Ⅰ（居宅介護実習）</p> <p>6. 実習における事前準備</p>	<p>7. 反省会（学びと気づき）</p> <p>8. 実習後の振り返り・まとめ</p> <p>2 学期</p> <p>9. 第6章 実習Ⅱの展開 第2節 実習モデル 介護過程を展開する介護実習第6章 実習Ⅱの展開（事例研究）</p> <p>3 学期</p> <p>10. 総合的な演習の展開 (1) 総合的な演習の概要 (2) 演習課題による全体のまとめ</p>
学習方法とアドバイス	ノートやレポート等は期限内に必ず提出する。 介護実習が適切に行われるよう関連して効果的に学習する。 「介護過程」「介護総合演習」と関連して行う。	
評価の観点と方法	<p>「介護総合演習」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 介護演習や事例研究に関心を持ち、介護演習の課題に主体的に取り組むとともに、介護の関する幅広い視野と福祉観を図る実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 介護演習に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【技能】 介護演習で学んだ知識や技術を身につけ、介護実習に対応することを目指してその技術を適切に活用している。実習の成果や課題を適切に報告できているか。</p> <p>【知識・理解】 介護実習の意義や目的、心得などを理解し、職業倫理を身につけるとともに、介護従事者に必要とされる社会福祉の意義や役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、定期考査の結果、授業中の態度、レポート等の提出物、反省会等に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>	
使用教材	新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）、プリント等	

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	介護実習	5	3年	福祉科	全員

学習目標	福祉の見方・考え方を働かせ、多様な場における介護実習や個別ケア、コミュニケーション、介護技術など実践的・体験的に行い、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を育てる。
授業計画	<p>第5段階（介護実習Ⅱ） 5月第3週～6月第3週（17日間）</p> <p>施設における要介護高齢者の日常生活や生活環境の理解 施設利用者とのコミュニケーション 個別的な介護技術の実践 高齢者施設における介護過程の実践 マナー、職務規定の遵守</p> <p>第6段階（介護実習Ⅰ） 7月第1週～第2週（4日間）</p> <p>在宅における要介護高齢者の日常生活や生活環境の理解 在宅サービス利用者とのコミュニケーション 在宅サービス利用者の生活ニーズや介護内容の必要性の理解と介護技術の実践 他職種協働及びチームケアの理解</p>
学習方法とアドバイス	<p>第5段階（17日間）・第6段階（4日間）、1施設2名～5名 実習要項（本校福祉科作成）に添って実施する。 「介護総合演習」「介護過程」と関連して行う。</p>
評価の観点と方法	<p>「介護実習」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 介護実習について関心をもち、介護実習に向けた課題に主体的に取り組むとともに、介護全般に関する幅広い視野と福祉観や介護技術の向上を図る実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 要介護高齢者の自立支援に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、授業で学んだ基礎的な知識や技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【技能】 介護に関する基礎的な技術を身に付け、介護実習に対応することを目指してその技術を適切に活用している。 実施した介護について記録し、自分の考えを適切に表現できる。</p> <p>【知識・理解】 介護現場における介護実践について理解し、介護や福祉に関する知識を身に付けるとともに、介護従事者としての役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、実習要項にある評価項目について自己評価後、福祉科教員及び実習指導者による評価を行います。さらに、実習中の態度、技術、実習記録物・レポート等の提出なども合わせて総合的に判断します。</p>
使用教材	新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）、プリント等

取り組みの状況・自己評価・反省等	
第5段階	
第6段階	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	こころとからだの理解 X	2	3年	福祉科	全員

学習目標	自立を尊重した生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を育てる。	
授業計画	<p><1学期> 障害の理解 障害の基礎的理解 生活機能障害の理解 (1)身体障害・聴覚障害・言語障害・肢体不自由・内部障害</p> <p><2学期> (2)精神障害 (3)知的障害 (4)発達障害 (5)高次脳機能障害 (6)難病</p>	障害のある人の心理 <3学期> ・障害と地域生活支援 *介護福祉士国家試験対策
学習方法とアドバイス	介護が必要な状態がどのようなメカニズムで生じるのかを学習し、科学的な知識の裏付けの必要性を学習する。 学習プリントなどの資料によって、学習効果を高める。 ノート、レポート等は期限内に必ず提出する。	
評価の観点と方法	<p>「こころとからだの理解」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 こころとからだのしくみに関する知識について関心をもち、こころとからだの理解の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 こころとからだのしくみに関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【技能】 こころとからだの各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、介護実践に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。</p> <p>【知識・理解】 こころとからだの各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、こころとからだのしくみに関する知識を習得する意義や役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、授業に取り組む姿勢や提出物などで総合的に判断します。</p>	
使用教材	教科書「こころとからだの理解」（実教出版）、最新介護福祉士養成講座 14「障害の理解」（中央法規）、見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021（中央法規出版）、プリント等	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
福祉	こころとからだの理解Ⅱ	2	3年	福祉科	全員

学習目標	自立を尊重した生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を育てる。	
授業計画	<p><1学期> 認知症の理解 第1章 認知症をとりまく環境</p> <p><2学期> 第2章 認知症の基礎的理解 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活</p>	<p>障害のある人の心理 <3学期> 第4章 認知症と地域サポート</p>
学習方法とアドバイス	介護が必要な状態がどのようなメカニズムで生じるのかを学習し、科学的な知識の裏付けの必要性を学習する。 学習プリントなどの資料によって、学習効果を高める。 ノート、レポート等は期限内に必ず提出する。	
評価の観点と方法	<p>「こころとからだの理解」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 こころとからだのしくみに関する知識について関心をもち、こころとからだの理解の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 こころとからだのしくみに関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>【技能】 こころとからだの各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、介護実践に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。</p> <p>【知識・理解】 こころとからだの各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、こころとからだのしくみに関する知識を習得する意義や役割を理解している。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、授業に取り組む姿勢や提出物などで総合的に判断します。</p>	
使用教材	教科書「こころとからだの理解」（実教出版）、最新介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」（中央法規）、見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021（中央法規出版）、プリント等	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

3年 組 番	氏名
--------	----